



自分の勉強と家族を支えるために自転車が欲しい奨学生の話

## もし自転車があったら、通学に農作業に作物を売りに行く時に...いいのになあ



「私の家は田んぼの中にある小屋です。毎日学校に行くときは、1kmほどの道を歩いて行きます。距離としてはそんなに遠いわけではありませんが、あぜ道を通り切ったりして行かなければなりません。そんな道は雨が降ると、とても歩きにくいです。そして学校の下駄箱は泥が跳ねてグチャグチャになった生徒の靴で、もういっぱいです。でも気持ち悪いヘビやムカデなどがいると思うと、靴を外に出しっ放しにはできません。

もし自転車があれば、学校に通うのにも父の農作業を手伝うのにも、植えて育てた野菜を売りに行くのにも、いいのになあと思うのです」

上記は、アムナートチャルーン県バーンノドゥ中学校2年生セーンダーウ・ブンシリ、(ニックネームはダーウ) 14歳から当財団に彼女自身と家族の事を知らせて来た手紙の一部です。

ダーウは両親と姉2人と暮らしています。お父さんは片腕の障害者ですが、雇ってくれる所ならどこでも働きに出ます。しかしその障害のため通常人と同等にはいきません。日当がたった200バーツということもよくあります(法律による最低賃金は300バーツ)。

お母さんは村で家事や子守りをしたり親戚の田植えや稲刈りといった農作業の手伝いをしたりですが、このような地域の人たちから貰える報酬はほんの微々たるものです。お父さんが貰ってくる賃金が少なすぎる時は、兄弟から生活費をちょっと借りるといことが重なっていきます。勉強など自分自身のことをちゃんとするのはもちろん、ダーウは家事全般:アヒルやニワトリの世話、家庭菜園の水やり、ご飯の支度などといったお母さんの様々な仕事を手伝い、また畑の野菜が余分に

きた時は近くに売りに出掛けます。そればかりでなく学校の休みには田んぼに行って片腕のお父さんが持てない重い道具類を代わりに運んだりしなければなりません。14歳の女の子には無理なように思える力仕事です。でもダーウはこんな環境に決して不平不満を言いません。自分のできる範囲で両親の重荷を分担したいと考えているからです。

EDFはバーンノドゥ中学校の当財団担当教諭カルナー・チュムチャン先生にインタビューしました。ダーウについて先生が言うには「ダーウの家庭訪問をしたことがありますが、家といっても、以前は農機具置き場だった田んぼの中の本当に小さな掘立小屋なのです。ダーウの家族にとっては他に住むところもないので、親族が田んぼの世話もするとの交換条件で住まわせてもらっているのですが、当然電気も水道も通っていません。家へ出入りする通路は細いあぜ道で、夜間には真っ暗で殆ど何も見えなくなります」。

先生はさらに話してくれました。「こんなに困難な家の状況にあっても、ダーウはそのことでひがんだり劣等感を見せたりしたことはありません。却って熱心に勉強し成績においても良い結果を出し、最新のデータでは「優」となっています。(彼女の全教科平均得点=3.83/最高は4.00)

そればかりかいつもクラスメートの勉強も助け、教師の手



伝いもしてくれます。彼女の両親もダーウがいい教育を受けるということを心から応援しています。ダーウは英語の勉強が好きです。外国の言葉を知りたい学びたいと思い、将来は英語の先生になりたいそうです」

EDFは教育支援プレゼントプロジェクトを2018年1月31日まで実施します。このようにしてプレゼントを受け取った生徒たちは、学校生活においてさまざまに役立てて使います。その上、プレゼントを貰うということは彼らにやる気を起こさせ、よりよい将来のためにも卒業するまで頑張ろうという目標を持たせます。EDFは、皆々さまからのご支援を切に願っております。



## 彼らのはじめて受け取ったプレゼント

2016-2017年に実施させていただきましたプレゼントキャンペーンはたくさんの方々からご協力いただきました。その結果、文房具セット128セット、かばんと日用品セット78セット、及び自転車104台を学生たちへ届けることができました。多くの学生にとっては生まれてはじめてクリスマス・お正月のプレゼントを手にして大変嬉しい大きな出来事となりました。その喜びとお礼のメッセージの一部を皆様にお伝えします。



「このプレゼントの文房具セットは生まれてはじめて私がもらったプレゼントで本当に嬉しいです。勉強のため大切に使うことを約束します。」

シリカヤヤー ロットピクン(小4)  
ペーンブアイ校ブリーラム県



「自転車をいただいたので買い物に行くのが大変便利になりました。歩くよりも時間もかからないし、うれしいです。また、時間のある日に、運動にも使えて健康になると思います。」

アピンヤー ハーンサラット(校2)  
サンカ校スリン県



「以前からずっと自転車が欲しかったです。通学にも買い物にももっと便利になるからです。今まで毎日お父さんは私と兄弟を学校へ送っていましたが、これからは、この自転車があるので、お父さんの負担を軽くすることができるのが嬉しいです。」

チャックリット プームスリーケオ(中2)  
バーンノン校スリン県



「私の両親は、農家で、雨の日も強い日差しの日も田んぼや畑で一生懸命働いています。日給の収入は家庭の経費と私の学校関係の費用だけで精一杯です。勉強に必要な文房具などを購入する余裕は全然ありません。今回文房具セットをいただいて本当に嬉しいです。」

キッティパット クルアセーン(中2)  
チュムチョングッドーンウィッタヤーコム校  
カラシン県



「学校で、ある日の朝、先生から校長先生に会いに行くように言われ、びっくりしました。校長先生のいる部屋に入ると、かばんと文房具がいっぱい入っている箱がありました。「これは全てあなたの支援者があなたに贈ってくれたものですよ」と校長先生が言いました。嬉しくてたまりませんでした。贈ってくれた方はサンタクローズのように優しいと思います。」

アティヤー ワイウォン(中1)  
バーンパッカ校シサケート県



「自転車をもらって本当にうれしいです。私の家は学校から3キロ離れており、毎日往復で6キロ歩かなければなりません。自転車で7時に家を出てたった20分で学校に着きます。歩くより時間を節約できますし、学校にいる時間も長くなります。」

チャットモンコン ムーンサーン(中3)  
バーンドウラート校ヤソトーン県

年末年始のような祝祭シーズンがまた近づいてきましたが、恵まれないタイの子どもたちにとって大事で意義深いプレゼントを新年のお祝いとして贈ってみてはいかがでしょうか。  
ご興味のある方は、今回同封した注文書をご利用いただき、お申込みください。よろしくお願い致します。

